



日本の気候政策アドボカシー

2023年9月28日

InfluenceMap 日本代表事務所

長嶋モニカ 日本カントリーマネージャー

monica.nagashima@influencemap.org

InfluenceMapについて

- 2015年に創立された独立系気候リスクシンクタンク
- ロンドンに本社を構え、ニューヨーク、東京、ソウル、キャンベラに拠点を置く
- データプラットフォーム：
 - [LobbyMap](#)：気候変動政策関与の調査。データベースには500の企業、200以上の業界団体
Climate Action 100+、OECDと協働
 - [FinanceMap](#)：金融機関の総合的な気候リスク分析。GFANZのNet Zero Asset Owners Alliance
(NZAOA)、ファイナンスに関する規制当局と協働
- 主なデータユーザーはアセットオーナー等の機関投資家
- 全報告書やデータは無料で提供。企業、政府、メディア、市民団体にも広く活用されている

LobbyMapプログラム

気候変動政策、
法規制への
影響力



排出量や
ビジネスモデル、
企業の推進する
気候変動対策

政策関与への注目の高まり：投資家の期待



“地球の気温上昇を1.5°Cに抑えるためには、野心的な気候政策と企業の責任ある気候ロビイングが重要です。[...] 具体的には、コンプライアンスまたは説明に基づいて、各企業がロビイングを「責任ある企業の気候変動ロビイングに関するグローバルスタンダード」に沿って管理・実施することを期待します。” (The Global Standard on Corporate Climate Lobbying (2022), “Investor Statement in support of Responsible Climate Lobbying”)



“このような高いレベルの監視は、ロビー活動が企業の幅広い社会的関与と矛盾しないことを保証するため、より良い基準と説明責任のメカニズムを伴う必要があります。[...] ロビイストと企業のこの分野での進展を導くためには、包括的で詳細かつ現実的なロビイング原則のさらなる基準が必要であろう。” (OECD (2021), “Lobbying in the 21st Century”)

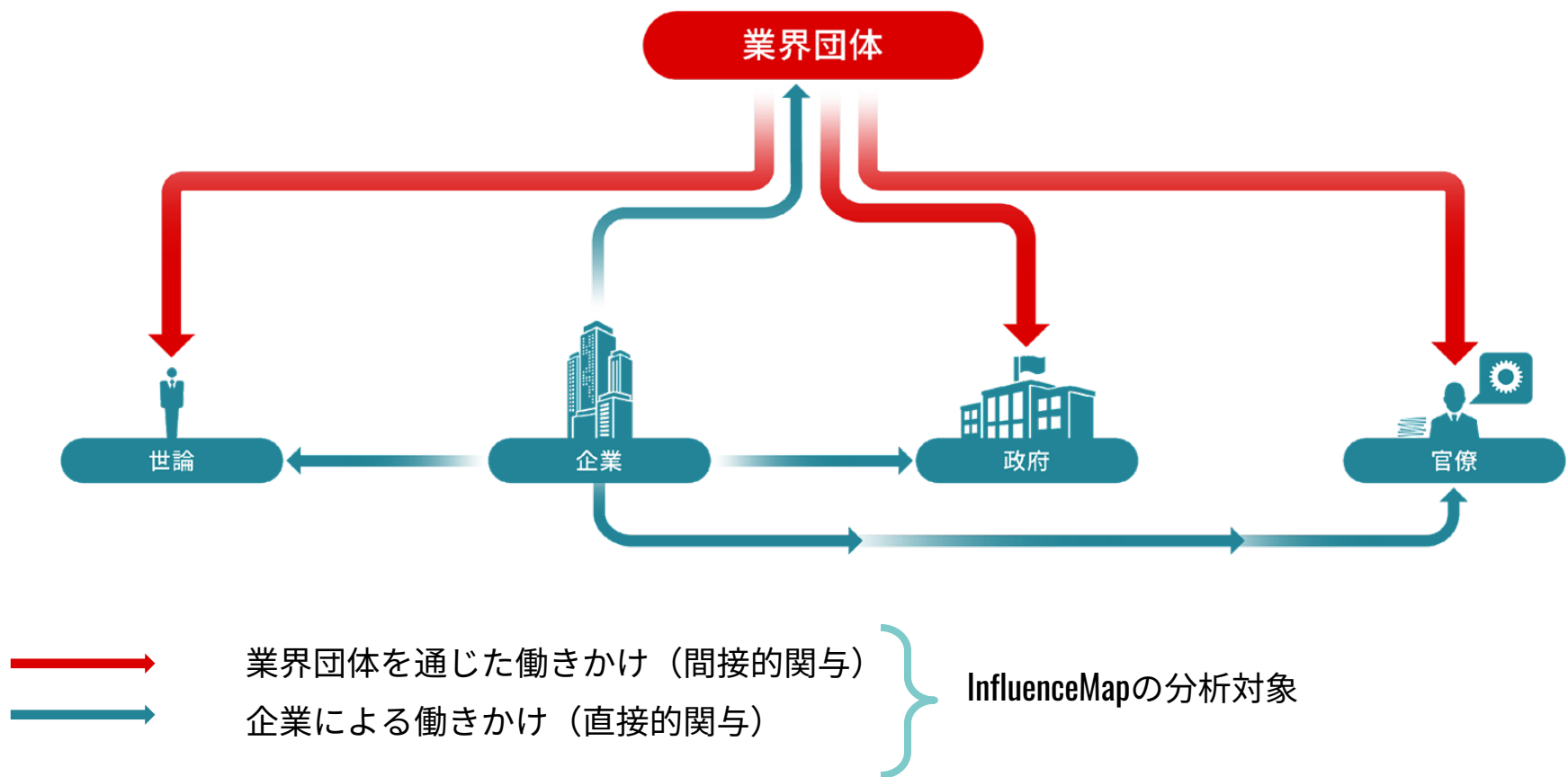


68兆ドル以上の運用資産に責任を持つ機関投資家が、気候政策への関与の改善などについて、企業に働きかけている。
(CA100+)

英国の世界最大級の銀行HSBCは“エンゲージメントに加え、ロビー活動などの重要な分野における企業行動も、年次総会での投票を検討する際に考慮される”と述べ、ロビー活動の情報活用を強調した (HSBC, Clinton Adas)



気候変動政策への影響力の分析



2013年の国連「[企業による責任ある政策関与のガイド](#)」に基づいている

InfluenceMapの分析方法

- 気候変動政策：UNFCCCプロセスに沿った過去、現在、将来策定される気候変動及びエネルギー政策を示す
- 一般公開されている7種類の情報源から政策関与のエビデンスを収集
- 各エビデンスは「気候政策ベンチマーク」に対して評価される。ベンチマークは、パリ協定達成に向けた各国政府の政策（例：米国の企業平均燃費規制 CAFE: Corporate Average Fuel Economy Standards）およびIPCCの科学的な政策（例：IPCC 1.5°C報告書によるEVやエネルギーミックス等に関する知見）を用いている

<https://lobbymap.org/page/Our-Methodology> （日本語もございます）

※現在オンラインの方法論ページは更新中なので、PDFにて共有しております

InfluenceMapの評価指標

■ パフォーマンス・バンド (A+からF):

企業の気候変動政策関与の総合評価

■ **組織スコア (Organisation Score)** (0-100):

直接的な気候変動政策関与の評価

■ **関係性スコア (Relationship Score)** (0-100):

企業が関係を持つ経済・業界団体による気候変動政策関与の評価

■ 関与の度合い (Engagement Intensity) (0-100):

気候変動政策への働きかけがどの程度、戦略的、積極的に行われているかを示す



Net Zero Company Benchmark
Alignment Assessment Indicator



75-100 基準を満たす



50-74 部分的に満たす



0-49 満たしていない

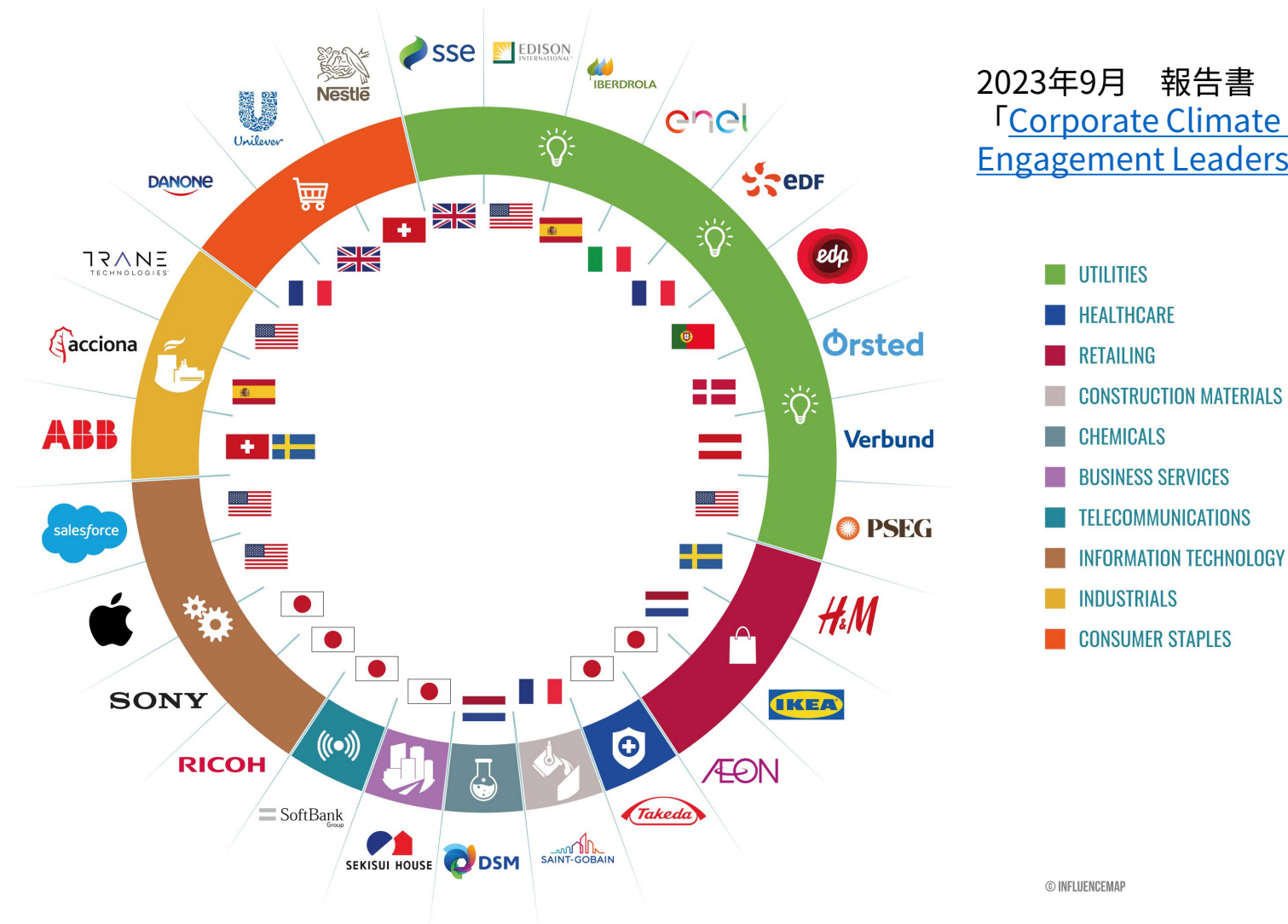


該当なし
関与の度合いが0-4

※2023年10月より、開示の透明性とレビューに関するInfluenceMap指標もCA100+ベンチマークに追加されます

気候政策エンゲージメントのリーダー企業 2023

2023年9月 報告書
[「Corporate Climate Policy Engagement Leaders, 2023」](#)



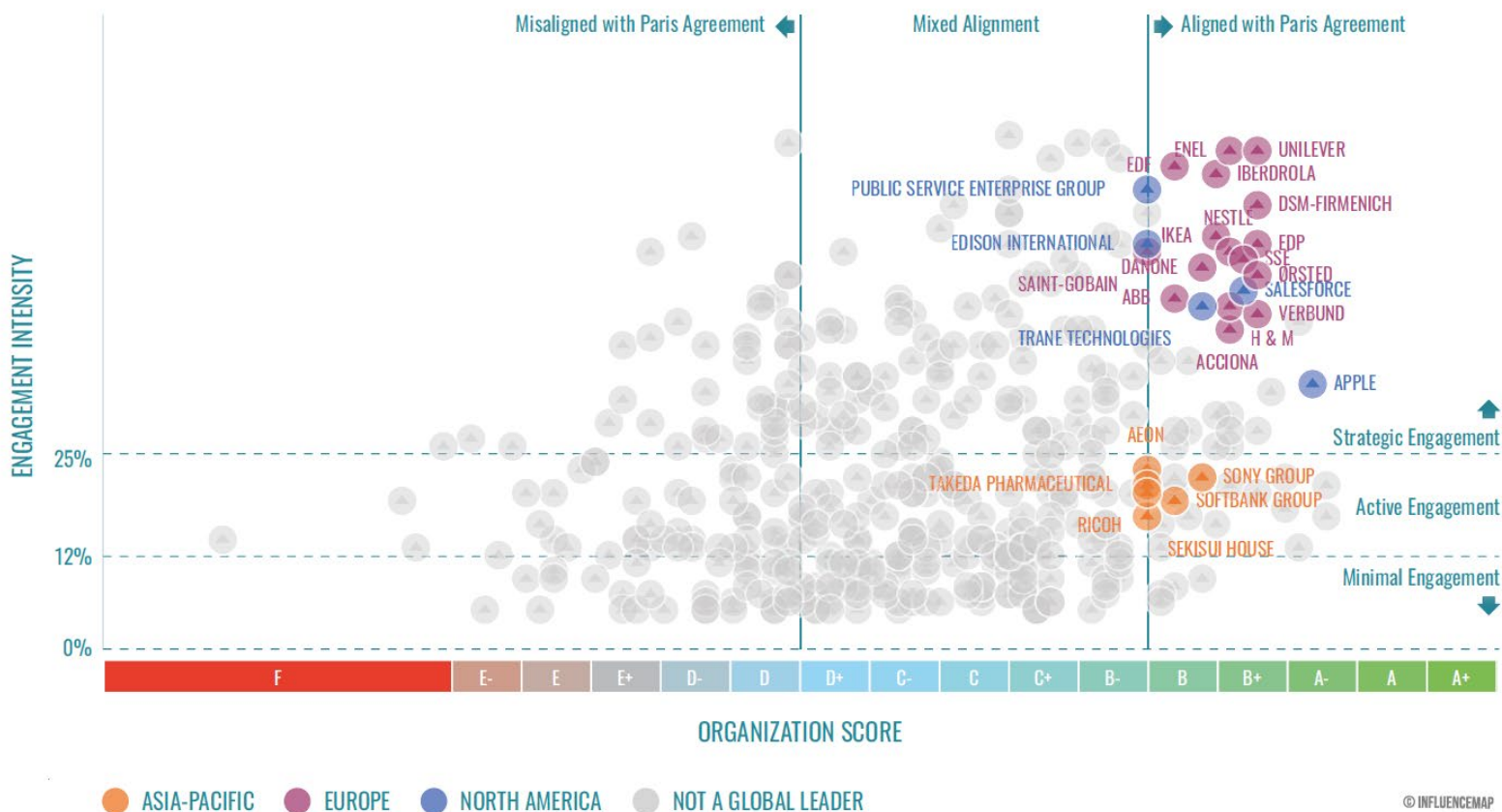
リーダー企業の選定

1. 前向きな政策関与を示す「組織スコア・Organisation Score」75%以上を獲得
2. 前向きだけではなく、積極的な政策関与の基準を満たす「関与の度合い・Engagement Intensity」：
 - 欧州 関与の度合い35%以上
 - 北米 関与の度合い30%以上
 - アジア 15%以上 — アジア、日本における関与は比較的、積極的ではない
3. 3つ以上のネガティブな業界・経済団体（Organisation Score 50%以下の団体）に所属している企業で、団体に関する開示やレビューを行っていない場合は、Global Leaders listの対象外となる

気候政策エンゲージメントのリーダー企業

The 27 Global Leaders make up roughly 5% of the entire InfluenceMap database. The graph below plots the climate policy engagement performance of the 27 Global Leaders relative to a random selection of companies globally.

Global Leaders Compared to Global Corporate Landscape



政策関与の事例

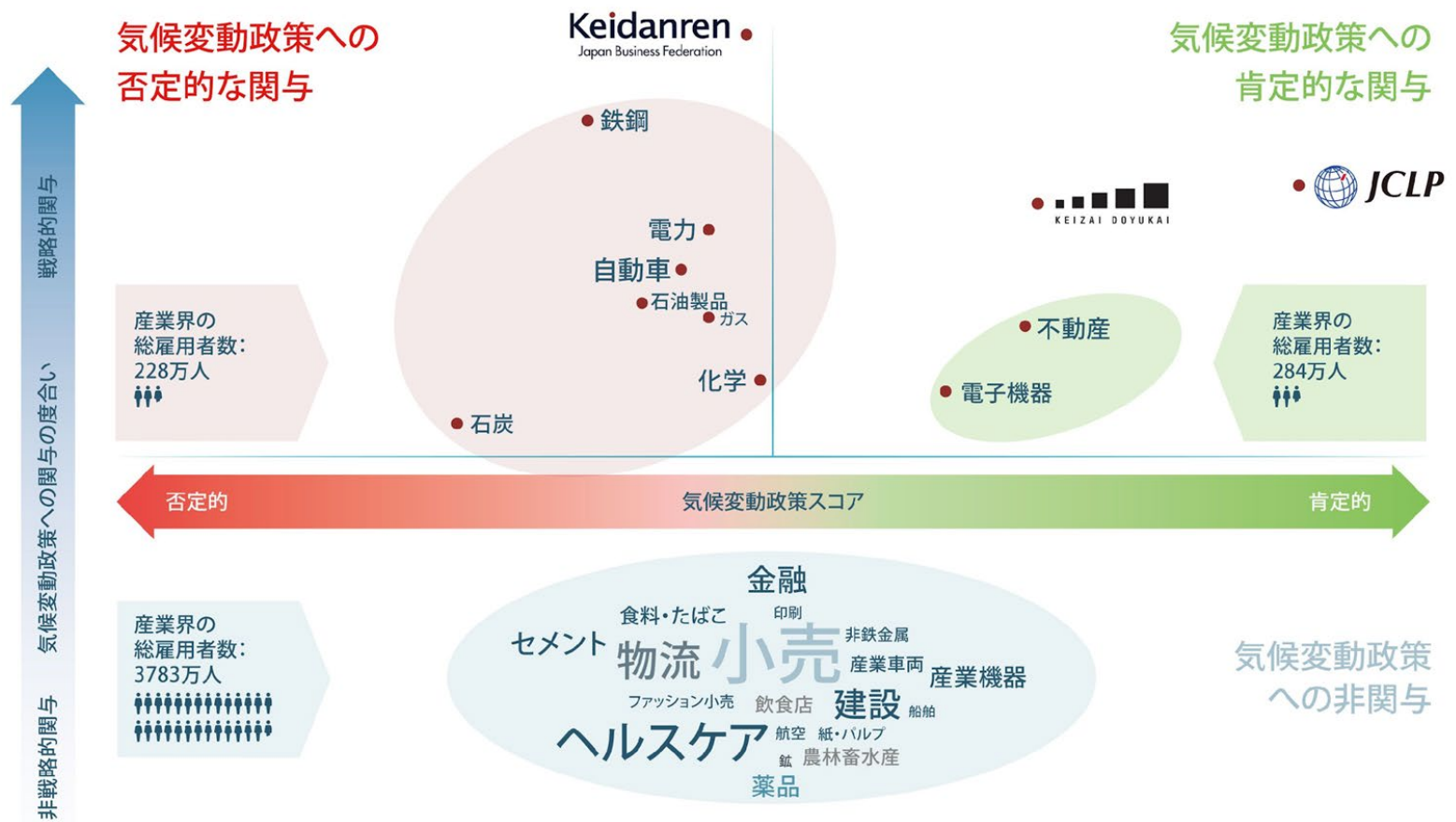
RICOH

- リコー（Org Score 75%、Engagement Intensity 20%）は、[カーボンプライシング](#)、[2030年排出量目標](#)、エネルギーミックスの[脱炭素化](#)、2030年までの[再生可能エネルギー50%目標](#)など、さまざまな気候変動政策を積極的に提唱している
- リコーの山下芳則会長は、JCLPの共同代表して、[炭素税](#)や[排出権取引](#)、[洋上風力の拡大](#)などを求める提言を首相に提出した



- IKEA（Org Score 79%、Engagement Intensity 53%）は、InfluenceMap 2021年A-List企業レポートにも取り上げられた、リーダー企業である
- 2023年2月に欧州委員会コーポレート自動車イニシアチブにおいて拘束力のある企業のZEV調達目標を支持し、EU Alternative Fuels Infrastructure Regulationにおいても野心的な民間の充電インフラ目標に賛同した。

日本の経済・業界団体の気候政策関与



100万人

A 文字の大きさは産業界の経済活動指数に比例する

2022年11月報告書

© INFLUENCEMAP

日本の業界団体の政策への働きかけ（一例）

InfluenceMap 評価	団体	関与の度合い	気候変動政策への見解
C-	日本経済団体連合会	50	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的余剰LNGを支持し、2030年以降の火力発電の使用を支持しているようである（経産省、2023年8月） 経済性を重視し、住宅用太陽光発電の設置義務化を支持しないことを示唆（経産省、2023年7月） 全個体電池搭載のPHVとEVを支持している一方で、他のBEV技術への投資をやめるよう提案しているようである（講演、2023年8月）
D	電気事業連合会	36	<ul style="list-style-type: none"> 再エネの調整力として火力発電が一層重要となるとしており、戦略的余剰LNGの確保等を提唱している。水素・アンモニアの混焼やCCSなどの火力発電の脱炭素化の事業化に向けた投資が必要であると主張するものの、IPCCのガイダンスに沿った移行を支持しているかは不明（経産省、2023年6月）
D	日本自動車工業会	29	<ul style="list-style-type: none"> 乗用車の電動化よりも技術中立的な脱炭素化を求め、トランジションファイナンスロードマップにCNFを含めることを提唱した（経産省、2022年12月） 欧州のZEV規制やトラックのCO2排出基準を弱め（2023年5月）、オーストラリアの乗用車のCO2排出基準も弱めるよう働きかけた（2023年5月）
E+	日本鉄鋼連盟	44	<ul style="list-style-type: none"> GXロードマップにおいて炭素税に反対している。成長に資するカーボンプライシングは、「技術開発の原資を奪う」としていた炭素税や排出量取引などの「従来までの議論と一線を画する」政策として評価している（経産省、2023年2月） 原子力発電の拡大を支持しつつ（2023年1月）、エネルギーミックスで火力発電の利用継続を主張し（2022年9月）、環境配慮よりもエネルギー供給と経済効率性の必要性を強調しているとうかがえる

投資家が認識する気候変動政策関与の重要性

- **ポートフォリオの1.5°C整合には政策の変化が不可欠**
- **システミックリスク**：ロビー活動による長期的なポートフォリオ・経済的インパクト（例：再生可能エネルギー市場の成長がロビー活動により脅かされる）
- **企業・セクターリスク**：現状の政策に支えられているビジネスモデルは気候変動の政治的变化のリスクにさらされる（例：自動車セクター）
- **ガバナンスのプロキシ**：企業の戦略と気候変動に纏わるロビー活動の整合性
- **受託者責任& ESGファンド**：企業のロビー活動を理解する必要性（LGIM's Future World Fundに弊社のメトリクスが活用）

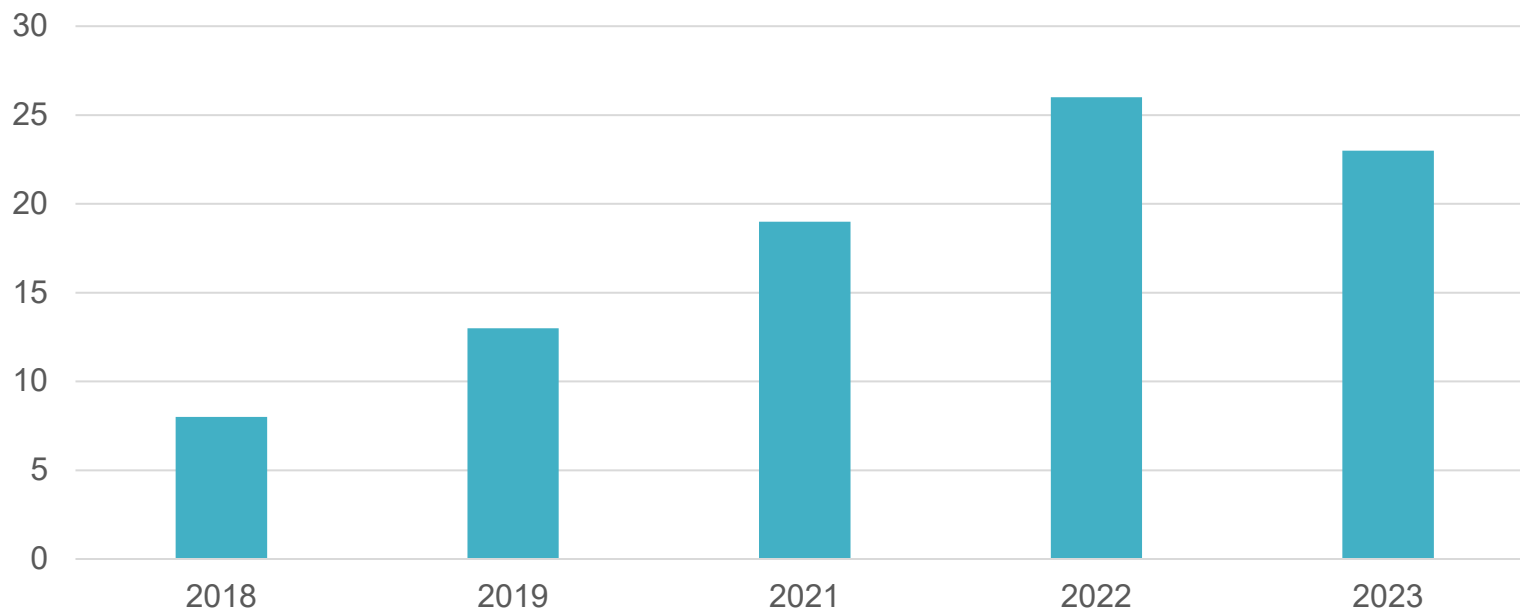
気候政策関与の開示とレビュー

- 投資家は、企業のロビー活動、及び業界団体を通じたロビー活動の1.5°C整合と、ガバナンスを求めている ([Investor Global Standard on Responsible Corporate Climate Lobbying](#))
- 80社近くが気候政策への関与のレビューを公表。アジアで開示している企業はトヨタ自動車のみ
- InfluenceMapは、これらのレビューの質を投資家グローバルスタンダードに照らして評価し、ランク付けする手法を開発した
- すべての項目で投資家の基準を満たした企業はないが、特定の項目でより良い評価を得ている企業はある。詳細は [こちら](#)

Company	Review Score (0-100)	Sector	Region
Enel	71	Utilities	Europe
Bayer	64	Healthcare	Europe
Fortum	64	Utilities	Europe
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.
Toyota Motor	36	Automobiles	Asia
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.
Daikin	N/A	Industries	Asia
Suzuki	N/A	Automobiles	Asia

政策関与への注目の高まり：株主提案

気候政策ロビー活動にまつわる株主提案の推移（件数、2023年8月現在）



- 2023年6月、年金機構等によるトヨタの気候変動渉外活動に関する株主提案
- InfluenceMap 株主提案ブリーフィング資料 <https://ca100.influencemap.org/resolutions>

業界団体の問題に対処 -ユニリーバの事例-



[About](#) ▾ [Our brands](#) ▾ [Sustainable Living](#) ▾ [News](#) ▾ [Careers](#) ▾ [Investor Relati](#)

[home](#) > [... Global climate action](#) > [Responsible engagement in climate policy](#)

Responsible engagement in climate policy

An open letter from Unilever CEO Alan Jope to our trade associations and business groups

Climate change is one of the greatest challenges we face, as a society and as a business. If we are to avoid the catastrophic consequences of global heating, urgent action is required to shift our economies onto a zero carbon pathway.

Like many businesses, we are seeking to accelerate climate action within our own operations and within our wider value chain.

However, it is increasingly clear that tackling climate change at the speed and scale necessary requires wider transformational changes to the systems in which we operate. This requires strong government policy that creates the right context for further change and accelerated business action.

Unilever advocates for policies that advance the goal of the Paris Agreement on Climate Change to limit the increase in the global average temperature to well below 2 degrees, and ideally no more than 1.5 degrees, above pre-industrial levels by the end of the century. We believe this means achieving a net zero emissions world by 2050.

We have also supported, since its creation, the United Nations Global Compact's Commitment to Responsible Engagement in Climate Policy, which calls for companies and trade associations to ensure their lobbying aligns with their public position on climate change.

We are entering a critical period for climate action, as governments consider whether to raise their national climate ambition ahead of the UN Climate Change Conference - COP26 - in 2020. We would invite all our trade associations and business groups that are engaged on climate policy to consider whether the level of ambition for which they are advocating is truly consistent with the deep emissions cuts implicit in the Paris Agreement and that the latest science makes clear are necessary.

The climate crisis has now reached a point where there can be no room for misinterpretation on the scale of the challenge, or indeed on the importance of regulatory measures to support businesses in driving the transition to a net zero emissions economy.

As a result, I would be grateful if you could confirm whether, as a trade association or business group of which Unilever is a member, your current lobbying position on climate policy is consistent with Unilever's position and the 1.5 degree ambition set out in the Paris Agreement.

More information on our position on climate policy can be found on the [Global climate action page](#) on our website.

Alan Jope

CEO, Unilever

5 June 2019

- LobbyMapのデータを用いて所属している業界団体の気候変動に関する立場を確認
- 複数の業界団体が自社と立場が異なることが発覚
- 業界団体の政策関与を1.5°C目標に整合したものにするようCEOから業界団体に対しオープンレターを送った

気候政策エンゲージメントのリーダー企業になるには



経営幹部の賛同



Step 1: Get C-suite buy-in

Ensure climate policy engagement plans have buy-in from the CEO and regulatory affairs



気候変動科学に基づいたアプローチ



Step 2: Use science-based benchmarks

Resources such as IPCC and IEA analysis can be used by companies to plan science-based approaches to climate advocacy



レビューと開示



Step 3: Review and disclose

Comprehensive disclosures on climate policy engagement can lay the groundwork for action and accountability



業界団体の問題に対処



Step 4: Address the industry association issue

While companies might be positive in their own advocacy, their industry associations wield more power over policy



あらゆる政策関与戦略を展開



Step 5: Deploy the full range of policy engagement tactics






A whole range of tactics – from advertising campaigns to detailed technical input – is needed to advance climate policy

報告書（2023年3月）

ネットゼロと政策アドボカシーにおける新たなコーポレート・リーダーシップの必要性

- <https://influencemap.org/briefing/Net-Zero-and-the-Need-for-New-Leadership-in-Corporate-Climate-Advocacy-14774>

(参考) コーポレートリーダーシップの事例

ステップ	カテゴリー	事例
	経営幹部の賛同	ソニー、リコー、花王のCEOは、2020年に日本の河野太郎行政改革担当大臣と会談し、再生可能エネルギーに関する意欲の向上を強く訴え、2030年までに40%の再生可能エネルギー目標を掲げるよう要求しました。ソニーの吉田憲一郎CEOは、顧客のアップルやフェイスブックがサプライチェーンの脱炭素化を求めており、日本が目標を達成できなければ、工場を日本国外に移さなければならないことを強調したと報じられています。
	気候変動科学に基づいたアプローチ	Edison Internationalの子会社であるSouthern California Edisonは、カリフォルニア州の建物の脱炭素化に関するルールメイキングを通じて、すべてのガスインフラのインセンティブを廃止し、オール電化の建物建設を促進することを提唱しました。IPCCは1.5Cパスウェイにおける電化の重要性を強調しています。また、同社はコメントで「天然ガス」ではなく「化石ガス」という言葉をいち早く使用しました。
	レビューと開示	Enelは2023年レビューにおいて、自社のロビー活動に関する完全かつ正確な説明と、整合性を評価し、不整合の可能性がある場合に対処するための明確なガバナンスプロセスを開示しています。さらに、気候変動政策に後ろ向きに関与する3つの主要な業界団体（Confindustria, Edison Electric Institute, CEOE）との立場の違いも確認しました。しかし、同社は、これらの団体によって行われた詳細かつ重要な気候変動政策への関与に対処するための行動を明確には示していません。
	業界団体の問題に対処	業界団体が気候変動政策への関与の立場を固持する場合、一部の企業は、気候変動に関する自社の立場を明確にするために、業界団体から脱退することが唯一の方法であると判断しています。2022年、Maerskは、気候変動に関する業界団体の連携を見直した結果、国際海運会議所の理事会メンバーから脱退しました。
	あらゆる政策関与戦略を展開	2022年、Iberdrolaのイグナシオ・ガランCEOは、バイデン大統領を含む世界の指導者たちに政策の野心を高めるよう促しました。例えば英国首相との会談では、同社が「グリーンエネルギー」の野心的な目標に応えることを約束しました。さらに、セクター横断的な主要団体であるコーポレート・リーダーズ・グループの副会長職を採用し、「組織的な代表を強化」するとともに、EUと米国の様々な政策について詳細で直接的な技術的インプットを継続しました。また、フィナンシャル・タイムズ紙に広告を掲載し、この活動を支持しました。

ご清聴ありがとうございました